

平成 19 年 2 月 9 日

東京会場

於：湯島聖堂

## 中齋塾準備フォーラム 第 7 回講話

おはようございます。

陽明学の一言と最近の時事問題についてお話しする、そういう内容で中齋塾準備フォーラムが固まってまいりました。

最初に皆様にお聞きします。

今朝起きてから今の時間まで、嘘をつかなかった方はどれくらいおられますか？

昨日一日嘘をつかなかった方はいらっしゃいますか？

では今月、嘘をつかなかった方はおられますか？

常に自問自答する習慣にしておくと思いいます。

日常の活動をする時に、自分の思い込みだけで行動を起すと危ないです。

誰か、見てもらう人、チェックしてくれる人がいるといいですね。

生活習慣にしても、的確なアドバイスをしてくれる信用できる人が必要です。

皆さん食べものを食べますね。

でしたら自分の身体に良いと思われるものを食べて、良いと思われる生活リズムでいくべきです。

ところが我々は頭にご飯を食べさせていないのです。

学ばなければ、身体だけは大人になるけれども、頭は成長しません。

陽明学の一言、本日は「事上磨練」がテーマです。

今まで申し上げたものは、全部「学」です。

学問というものは、日常生活に役に立たなければ学問とは申しません。

日常生活に役に立たない学問は似非学問だと教わっておりますし、そう信じております。

学びの縁は非常に貴重ですし、大事なものです。

私は、石川梅次郎先生に学びました。

石川梅次郎先生のお師匠さんを遡って行くと、山田濟齋・三島中洲・山田方谷・佐藤一齋となります。

縦の流れで来ています。

その流れの中に、安岡正篤という先生が違った形で存在しておられますし、木内信胤先生には又、別の視点で人格の迫力を体験させて戴き、総合的直観力を教えて戴きました。

ですから縦の学問の流れと、自分の人脈で横に広がっていく横軸の流れを意識して、今自分がどの位置にいるかを常に見ていなければいけないと思っています。

「事上磨練」という言葉は、日頃の仕事、生活の中で自分を磨くことです。

学問は座学で、机に座ってする学問だけではありません。

一番大事なものは、体験です。

外に出て行って行動して、体験してはっと思うこと。

その結果、何か自分で足取りも軽くなったし、一つ覚えたと思える。

そういう積み重ねをすることが「事上磨練」です。

例えば仕事をして、苦い思いをして、「やっと覚えたぞ」とか「一つステップが上がったぞ」というものが「事上磨練」です。

ひたすら一つのことに打ち込んでいく人の顔は、とても良い顔ですね。

「事上磨練」という言葉から考えますと、特定する対象は、自分が清々しくなるもの、心が豊かになるもの、気持ちの良いもの・・・それをひたすら一所懸命そして一生涯追いつけることにより、結果として「事上磨練」は達成できると思います。

「事上磨練」をやっていくと、どうしても自分の会社が置かれている状況はどうなのだろうかと考えます。

自分の置かれている業界はどうなのだろう？

地域はどうなのだろう？

国はどうなのだろう？

・・・一つ一つ階段を上っていくように、事上磨練を進めれば進めるほど、気になるものが増えて、自分で体験し確認してみたいくなる。

そういう心の作用が出てきます。

今年の干支は丁亥です。

「丁」は釘の頭です。

「亥」は猪、爆発です。

去年は丙戌でした。

私は、犠牲者の首が並ぶと申しました。

干支は緩やかに移行していきますから、去年の生首はまだ足りなくて、今年はまだ残っていた生首がもっと出ます。

政治家の首が飛びます。

高級官僚・大企業のトップの首も、どんどん挿げ替えられる年だと読み取れます。

世の中が相当おかしくなって来ています。

肉親を殺し、しかも切り刻んで捨てに行くような事件が次々に起こり、私たちの気持ちも麻痺しています。

これは従来の常識で考えたら、大変な事だと思います。

一般の社会生活を営んでいる方々も、相当腐って来ています。

「亥」は爆発ですから、北朝鮮から何かが飛んで来てもおかしくはないと思っていますし、爆発力を持った大きな事件が起きる。

災害も起きると思います。

そう考えると、安倍内閣がそのまま存続するとは考えにくいと思っています。

政治家から高級官僚から財界から、皆ひっくるめて頭を下げて首を挿げ替えられるだろうと思います。

不二家事件についても、何故社長がすぐに引責辞任しないのかと思います。

今迄自分が間違っていたと思ったら、スパッと辞められるのが当然でしょう。

失敗した人間が、成功した後始末を出来るはずがありません。

失敗したのならスパッと辞めるべきで、能力のある人間に道を譲るべきです。

本人が居座っている間は、次の人が出て来れないのですから、さっさと自分は身を退いて次の人にバトンタッチすべきなのに、お体裁だけ取り繕って、すぐに辞めないなとテレビを見て思いました。

何故そうなるのか。

判断基準がきちりしていないからです。

自分で自分の身に付けている判断基準が、きちんとしたものを持っていないからだと思っています。

この中斎塾では<視・観・察>とか<本質・大局・歴史>といった、自分自身でものを判断する基準を身に付けましょうということを言っています。

「事上磨練」の中で、キーワードになるものをいくつか申します。

<本質・大局・歴史>で見ると、日本の国が腐っていると先ほど申しましたが、これは日本のことだけなのか、日本は過去にそういう事があったのか。

それらを疑問に思うかどうかが肝心です。

私は疑問に思ったのです。

日本は今腐っています。

この中にいたら、自分も腐って死んでいってしまう。

この自分の疑問とか、危ないと思う気持ちを自分で確かめてみたいと思ったわけです。

陽明学は、何か疑問に思ったら必ず行動に移る学問です。

疑問に思った事を、毎日追求してみることが大切です。

そこで日本の過去を調べました。

終戦を境に日本の国はがらっと変わったと言いますが、日本の戦前と戦後が、どのような所で変わったのか。

そのターニングポイントは昭和 21 年ですから、国会図書館に行って昭和 21 年 2 月 17 日付けの新聞を中心に、3 ヶ月くらいをずっと調べました。

昭和 21 年 2 月 17 日の新聞を見ると、日本の国の体制はがらりと変わりました。

61 年経っていますから、ごく当たり前に今の日常生活を不思議に思わないでやっています。

でもおかしいですね。

昭和 21 年に、「日本人は日本の教科書を使って教育をしてはいけない」という事が打ち出され、GHQ が検閲をし墨を塗った教科書で教えたわけです。

3 S 政策が打ち出されて、これは完全に現代で花が開きました。

スクリーン・セックス・スポーツです。

スポーツはあまり頭を使わないで、汗を流して、一見良く見えます。

野球にしてもゴルフにしても悪いとは言えませんが、それに力を入れすぎているのではないのでしょうか。

映画はアメリカの文化を目で見て全世界に広げていく上で、非常に良い戦略です。

その結果、アメリカの文化が世界へ相当広がりました。

もちろん文化を掘り下げて、日本人の心の中に良いものを生み出すのにも、映画は非常に良い効果をもたらします。

ただ「一億総白痴化」と、かつて言われました。

人がものを考えなくなる事も事実です。

セックスの面も、日本はかなり乱れました。

そう考えてみると、60 年前の日本は食糧緊急措置令が出て、食べ物が食べられなくなりました。

金融緊急措置令が出て、お金も自由に使えなくなりました。

25 都市に対して、都会地転入抑制緊急措置令が出ました。

そういったものが次々に出されて、日本の国の政策が、がらっと変わったのが昭和 21 年です。

昭和 22 年は、それがどんどん進められた時代です。

そして 61 年経って、日本の国の一番根幹である精神的なものが腐臭を放った、腐りきった状況になってきた。

という事が、日本の過去を調べた結果分かりました。

過去に起きた事は、又同じ事が起きると思いました。

日本の国の借金は今いくらあって、稼ぎ高はいくらか。

GDP は 500 兆、借金は 1000 兆です。

稼いだ金額の倍が借金です。

最近国家破綻をした国、ロシアやアルゼンチンは、稼いでいる金額の半分で潰れていません。

大借金をした国家が崩壊しています。

ですから日本が、このまま何事もなく生きていける訳がないと思っています。

昨年私は、ロシアと中南米の国々、アルゼンチン、ペルー、ブラジルに行ってきました。

これらの国は、昔行っていますから、昔と今の比較もあわせて見る事ができました。

中南米の国々も、最初から治安が悪いわけではなかった。

借金を借金を重ねて、国が立ち行かなくなってしまうが為にインフレが発生して、給料だけでは生きていかれなくなり、二つ三つの職業を掛け持ちするようになり、最後は強盗団を組織するところまで来てしまった。

その国によって誤差はありますが、“人間は飯が食えなくなるとここまで来るのか・・・”と思うような状況がありました。

先日、警察関係の或る方とお話しして、色々とお聞きしました。

ペルーでフジモリ大統領の時に、日本大使公邸占拠事件が起きましたが、その時の危機管理に関係した方です。

その方の実感で、

「その国の体制が崩壊する時に、国の考え方・仕組みが悪いと、国民が相当数死にます。ロシアは大量の国民が飢え死にしました。中国も同じです。中南米は国の体制が崩壊しても国民は死にませんでした。なぜなら食べものが沢山あるからです。」と言っておられました。

た。

現実に行ってみると、中南米の国々は食べものが豊富にありました。

スーパーにも食糧が大量に安く売られていました。

ただ、外国から入ってくるものはなく、国産のものばかりでした。

国の仕組みによって国民は死んでしまったり、生き延びる事が出来るのだという事を、昨年はまざまざと目の当たりに見て来ました。

さてそうになると、日本の国の仕組みはどうなのでしょう？

そうそう長くは持たないと思います。

ではどれくらいでしょうか？

私は、これから3年間ではないかと思っています。

日本の国はおかしい、どうすれば良いのだろうか・・・という緊迫感が国民全体に広がって、具体的な動きが出てくるのではないかと思います。

私はこの中斎塾で何をするか。

日本の国の仕組みを考え直してみる。

一番重要なのは、自分自身の生活を一人一人が考え直してみようという気持ちになる事です。

自分自身の生活の中で、“お金も取りたい” “仕事も取りたい” と、あれもこれもと欲しがってはい便秘になります。

何でもかんでも取るのではなくて、ほどほどにしよう。

個人の生活も考え直して、家庭も考え直そう。

自分の所属している組織も考え直してみよう。

日本の国全体の仕組みも、これで良いのか考え直してみましよう。

日本だけではなく、世界全体が疲弊しきった状況に来ているのだと感じています。

日本をよく見てみると、「ほどほどでいいんじゃないの」とか「もったいない」とか「おかげさまで」といった良い言葉があるのだから、それらをよく掘り下げて、掘り下げて、考え抜いてみると、自然と何か一つ行動に出るものが出てきます。

私はまず、<嘘をつかないようにしてみよう>と思いました。

ところが自分を振り返ってみると、結構嘘をついているのですね。

ですから<嘘をつかないようにしてみよう>と思うことが一歩進展で、嘘をつかないようにする事で気持ちよく寝られます。

自分の心の在り様で、生き方ががらっと変わるのだと思います。

<視・観・察>について少しお話しします。

論語の中にありますが、人とお付き合いする時に、<視・観・察>の判断基準があります。

「視」は、例えば部下の人達の顔が分かる・名前が分かる、或いは家族構成が分かる。パッと見た時に、その人の人となりが分かる段階。

「観」は、部下をよく観察して、顔色が悪いとか、機嫌が良いとかが分かる。

ずっと付き合っていると、今までの付き合いの中でちょっと違う事が現れた時に察知が出来る段階です。

更に進んで「察」の段階は、相手の心の動きを察知して、手を打つことが出来る段階です。

論語の中には、他にも色々な判断基準が随所に盛り込まれていて、陽明学はその行動に移る具体的なヒントを沢山与えてくれます。

何度も申し上げますが、我々はここで聞いたり見たり話したりするだけでは役に立ちません。

良いなと思うものがあったら、御自分で是非行動して下さい。

そうすると腑に落ちます。

人さまと交流して、行動し体験して戴くと、光り輝くものになると思います。

本日は以上です。

有難うございました。